

博報堂教育財団
教職育成奨学金制度／活動紹介

【制度の趣旨】

- ・児童教育、国語教育の教員を目指す学生を対象とした奨学金給付制度。
- ・児童教育を支える未来の優秀な教育指導者の育成に貢献する。
- ・全国に広がる奨学生及び卒業生の輪が、教育現場での<学びあい、支え合いのネットワーク>となり、教育の質の向上や教育現場の活性化に寄与することを目指す。

【制度の特徴】

- ①教職志望者に対象を絞った完全給付型奨学金
- ②学費をほぼ全額カバーする奨学金を給付することで、学業及び優れた教員になるために必要な活動に専念できる環境を提供する。
- ③児童教育財団としてのノウハウやファシリティを活用し、特色ある研修プログラムを提供する。
- ④海外短期留学支援による、海外での経験を積む機会を提供する
- ⑤奨学生及び卒業生の交流を促進し、全国の教育現場での<学びあい、支え合いのネットワーク>の形成を目指す。

【奨学金給付対象者】

- ・推薦依頼大学から、以下の教員を目指す学生の推薦を受け、選考委員会による選考により採用者を決定する。

- ①小学校教員
- ②特別支援学校教員
- ③中学校・高等学校の国語科教員

<2023年度推薦依頼大学（59大学）>

愛知教育大学／愛知淑徳大学／愛媛大学／茨城大学／宇都宮大学／大分大学／大阪大谷大学
大阪教育大学／岡山大学／香川大学／鹿児島大学／鎌倉女子大学／関西大学／関西学院大学
京都教育大学／岐阜聖徳学園大学／岐阜大学／熊本大学／群馬大学／慶応義塾大学／神戸大学
國學院大學／埼玉大学／静岡大学／淑徳大学／上越教育大学／信州大学／玉川大学／千葉大学
筑波大学／都留文科大学／帝京大学／東京学芸大学／東北福祉大学／東洋大学／同志社大学
長崎大学／奈良教育大学／鳴門教育大学／日本大学／兵庫教育大学／広島大学／福井大学
福岡教育大学／福島大学／佛教大学／文教大学／北海道教育大学／三重大学／宮城教育大学
宮崎大学／武庫川女子大学／明治大学／明星大学／山形大学／横浜国立大学／立命館大学
和歌山大学／早稲田大学

【奨学金給付内容】

- ・授業料相当額
大学生（国立）：年額60万円（月額5万円）
大学生（私立）：年額120万円（月額10万円）
大学院生：年額60万円（月額5万円）
- ・自宅外生への特別支援費：年額60万円（月額5万円）

【海外短期留学支援制度】

- ・優れた教員になるための経験として役立つと思われる海外短期留学や海外研修等については、本人の申請と大学の推薦により支援する。
 - ・渡航費（アジア地域5万円、その他地域10万円）
 - ・留学・活動費（5万円／月）

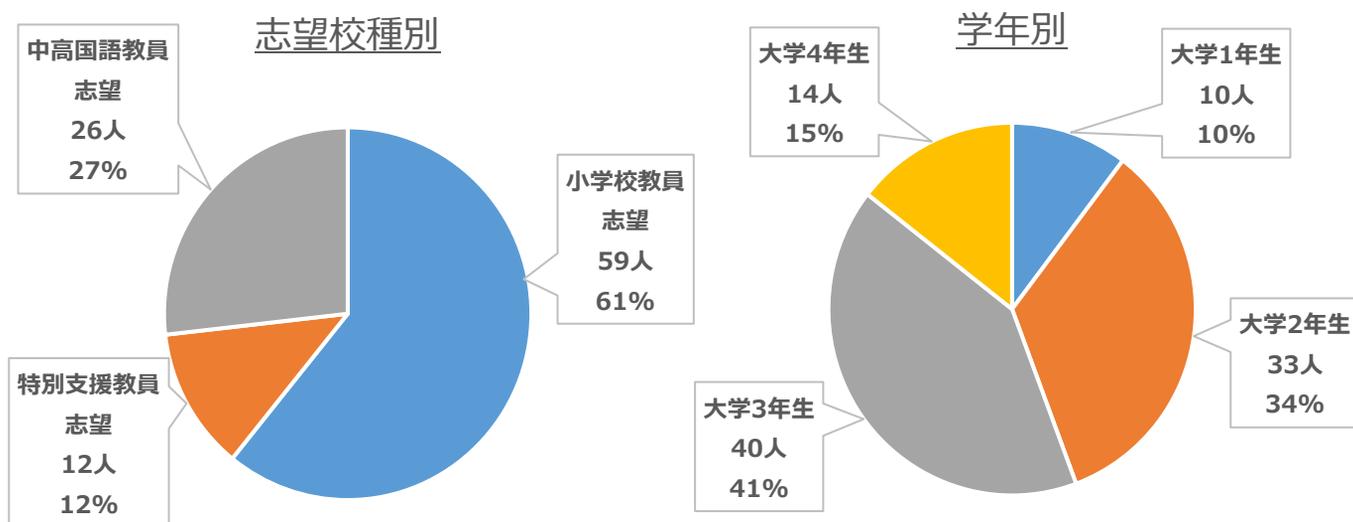
【大学院生への奨学金給付継続支援】

学部で奨学生であった学生が、以下の条件において大学院への進学を希望する場合、財団内の審査で進学後も継続して給付が認められた場合は、引き続き奨学金給付を行います。

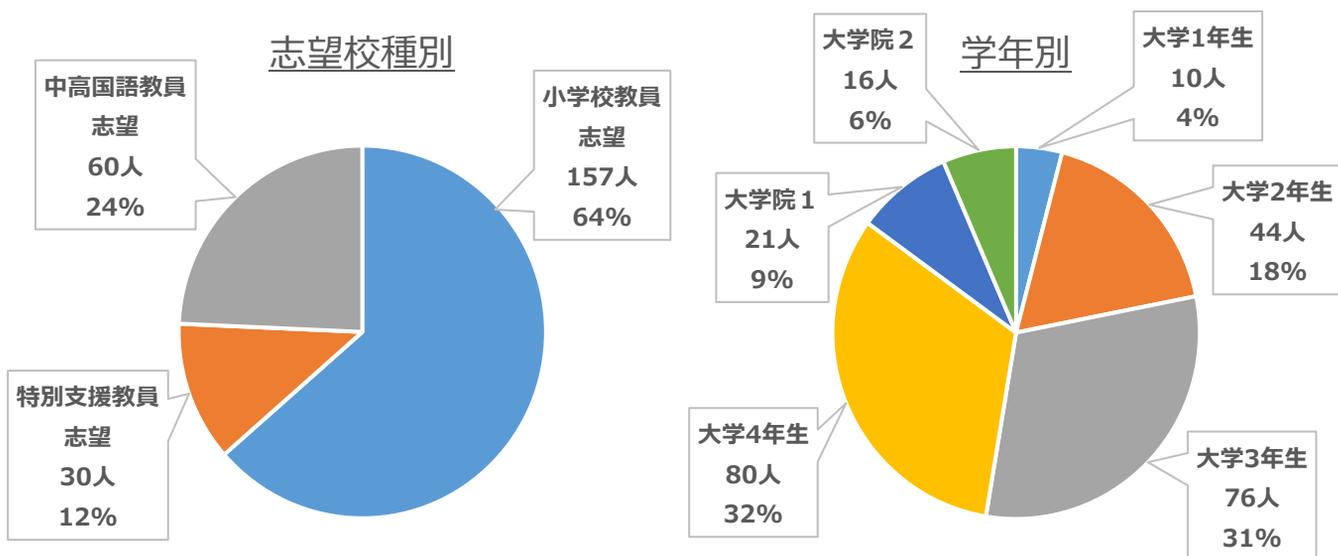
- 1) 奨学生の進学先が学部と同じ大学の大学院(修士課程)・教職大学院であること。
もしくは他の「推薦依頼大学」の大学院(修士課程)・教職大学院であること。
- 2) 進学が、小学校教員、特別支援学校教員、中学校/高等学校国語科教員のいずれかを
目指し、より高度な学びを得るためのものであること。

<奨学生の内訳>

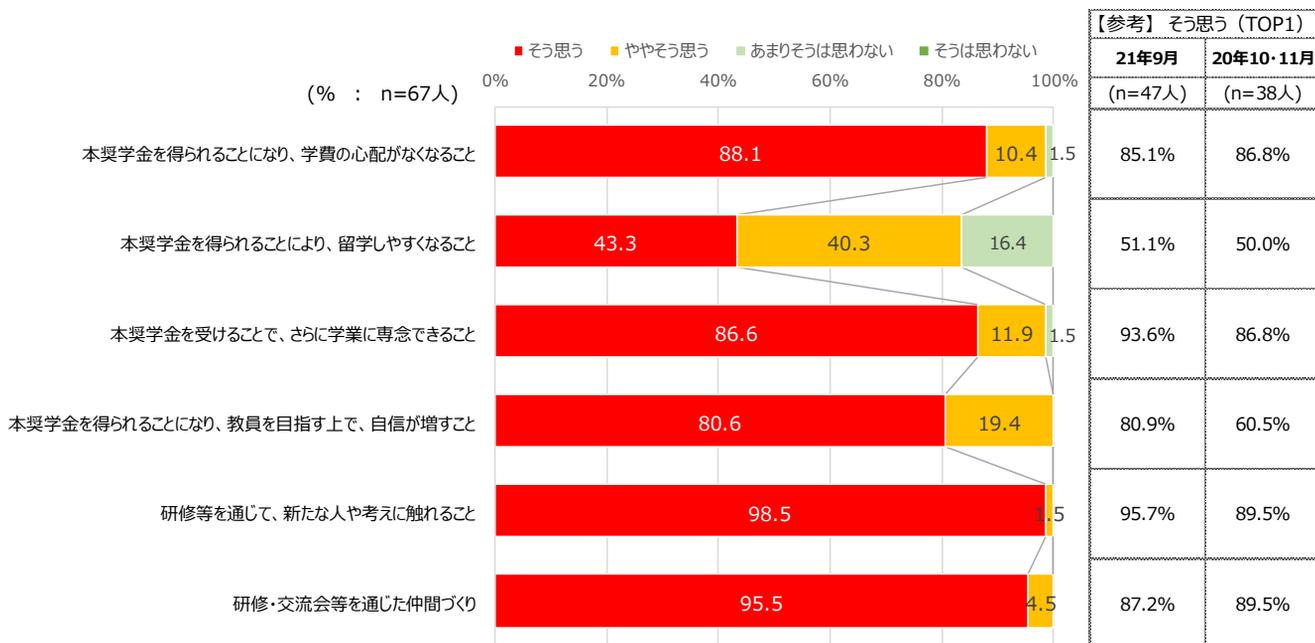
■ 2023年度新入奨学生（第6期生／97名）の内訳



■ 2023年度在籍奨学生（第1期～5期生＋第6期生／247名）の内訳



■ 期待の上位は、①新たな人や考えに触れる ②学業に専念できる ③仲間づくり



● 奨学生・OBOGとの交流、交流を通じた学び

- 同期の奨学生と長きにわたって交流を続けたいと考えているので、定期的な集まりが継続的に行われることを期待しています。また、奨学生の先輩や後に続く奨学生ともかかわりを持ってみたいので、うまく交流できたらと思います。【特別支援/3年次/男性】
- 財団職員の方々や、奨学生との交流を通して、自分が周りからどのような見え方をしているのかを深く知ること。また、自分に足りないものを見つけること。【小学校/1年次/女性】
- 研修での交流が、同期だけでなく、他の期の先輩や現職の先生とも交流ができる。【小学校/2年次/女性】

● 時間の余裕・選択肢の広がり

- 以前は生活費を稼ぐためにバイトを掛け持ちして勉強時間を十分に確保できなかったが、時間に余裕をもてるようになることで教員になった時に役立つ資格や副専攻を勉強する時間を取れるようになること【小学校/1年次/女性】
- 奨学金を受給させて頂くことで、今までアルバイトに費やしていた時間を、ボランティアや様々な経験を積む時間に変えること。【小学校/2年次/女性】
- 金銭的な余裕ができたことから、海外留学にも興味を持つようになりました。日本だけではなく、海外の教育課題や教育観について学び、幅広い知識を身につけたいという強い志があります。【小学校/2年次/女性】

● 教員としての自覚、知識の習得

- 普段の学校生活では、聞けない話や、教職に対する熱い話ができることが楽しみです！【小学校/2年次/女性】
- 現職の方や学年の進んだ先輩の話聞くことで、教員という仕事をよりリアルに感じることができて実践的な学びへ繋がります。【小学校/2年次/女性】
- いろいろな大学・校種の人もっと話をし、教師像・将来像をより明確なものにしたい。【中・高国語科/3年次/男性】

● 視野を広げる

- 大学では聞くことができないような経験を持った方からの話を聞けること(博報堂社員の方の話など、教育を専門とする方以外の話)。これは、自分の視野を広げることに非常に役立つと考える。【小学校/2年次/男性】
- 同じ教員を目指すもの同士が、地域や学年を超えて集まることにより、普段気がつかなかった考え方や価値観を得ることができ、それが視野を広げ、人としての質、教員としての質を高めることにつながる。【小学校/3年次/女性】

● 金銭的な負担軽減

- 両親にかかる生活費の負担軽減【小学校/1年次/女性】
- 期待というよりは、4年生にも関わらず他学年の学生と同じ額を支給していただけるということに驚いています。【中・高国語科/4年次/男性】

<研修プログラム>

【目的】

1) 奨学生（及び奨学生卒業生）間の交流の促進

- ・「教員になる」という同じ志を持ちながらも、地域、大学、年次、校種志望 の違う多様な奨学生同士での交流を促し、教育現場に出た後にも支えあえるネットワークに育てていく。

2) 博報財団ならではの学びの場の提供

- ・大学教育とは違う視点での「学び」のきっかけづくり。
- ・普段接する機会の少ない「多様な分野の人や考え方」に触れることで考え方を広げ、成長のきっかけに。

【研修の実施】

- ①新入奨学生研修（新入奨学生のみ／1泊2日）
- ②春の研修（全奨学生対象／2泊3日）

<研修プログラム／参考>

2022年度春の研修

【実施概要】

2023年3月3日(金)、4日(土)、5日(日) 東京有明
奨学生186名参加

【実施スケジュール】

	3月3日(金)	3月4日(土)	3月5日(日)
9		キックオフ 研修概要説明	全体講座
12		講座 A 共生社会の礎を 育む学校教育 ～ 真のインクルー ション教育とは ～	休憩
		講座 B 自分らしい未来 をつくるために ・ プレゼンテー ション力 基礎講座	「自分が目指す教師像を考える」
		講座 C チームの学びを デザインする クリエイティブ ファシリテー ション	研修振り返り・クロージング
		講座 D 未来の社会を創 る子どもを育 てる 「マーケティング 発想WS」 を体験しよう！	フリー交流
15		休憩	
18		全体ワークショップ 「粒ちがいが実感ワークショップ」	
	開会式 (黙食・交流)	奨学生主体・交流会	

3月4日（土）10時～14時30分頃

「共生社会の礎を育む学校教育 ～真のインクルーシブ教育とは～」

記号

A

<プログラム概要>

2022年9月、国連の障害者権利条約委員会が日本政府に対し、障害のある子どもに対する「特別支援教育の廃止」と「インクルーシブ教育の実現」などを含めた「勧告」を出しました。国連が指摘する日本の学校教育の問題点はどこにあるのでしょうか？本講座では、インクルーシブ教育や特別支援教育の基本を知識として抑えると共に、我が国が目指すべきインクルーシブ教育のあり方やそのために私たちができること・すべきことを、障がい当事者の大学生や社会人とともに議論しながら考えます。

<講師>



泉 真由子

(いずみまゆこ)

横浜国立大学 副学長
教育学研究科 教授

専門は特別支援教育、発達臨床心理学。

「発達の問題や心身の慢性疾患のある子どもの社会適応」、「障害理解・インクルーシブ教育」が主な研究分野。人文科学博士（お茶の水女子大学）。著書に「小児がん患児の心理的問題」（風間書房）、「標準病弱児の教育テキスト」（ジアース教育新社）など。日本育療学会理事、日本発達障害学会常任編集委員、日本特殊教育学会編集委員なども務めている。

3月4日（土）10時～14時30分頃

「自分らしい未来をつくるために・プレゼンテーション力基礎講座」

記号

B

<プログラム概要>

自分の夢ややりたいことを形にする際、プレゼンテーションの力が必要になります。プレゼンテーションで大切なのは、人の心と行動を動かし、変化をつくることです。人の気持ちを動かすために、「何を伝えるのか」「どのように伝えるのか」、それらを体験を通して楽しく学ぶ講座です。自分の身近なテーマを題材に、短いプレゼンテーション体験をする時間も設ける予定です。

学校の授業の中でも、プレゼン指導をする機会が増えつつあります。生徒や児童に行うアドバイスのコツも満載です。

<講師>



大木浩士（おおきひろし）

OOKIWORKS・代表/
企画プロデューサー/
とちぎ未来大使/
宇都宮大学・非常勤講師



栃木県出身。さいたま市在住。2011年の東日本大震災をきっかけに、会社で働きながら200以上の個人プロジェクトを形にする。主に、人が持つクリエイティブな力を引き出しながら、学びあいの場づくり、交流の機会づくりを行ってきた。

「やりたいことがあるなら、形にする」が信条。2022年11月に株式会社博報堂を退職し、起業。とちぎ未来大使・交流企画プロデューサー／キャリア教育アドバイザー／マイプロジェクトコーチ／出羽三山の山伏／神社研究者としての顔も持つ。

著書に『まずは小さくはじめてみる』（すばる舎）、『対話型授業のつくり方』『プレゼン指導の基礎ガイド』（東洋館出版社）がある。

博報堂在職中に、教育プログラム「H-CAMP」を立ち上げ、中高生向けに700回以上の対話型授業を開催。2016年に経済産業省が主催するキャリア教育アワードで、経済産業大臣賞と大賞を受賞。

3月4日（土）10時～14時30分頃

記号

「チームの学びをデザインするクリエイティブファシリテーション」

C

<プログラム概要>

皆さんはチームワークは得意でしょうか？「あまり得意ではない」という方もいらっしゃると思います。実は、チームと一緒に活動することは、センスや個人の得手不得手ではなく、トレーニング可能なスキルです。博報堂ではプロデューサー・プランナー・デザイナーなど様々な立場の専門家がチームを組んで働きます。そこで培われたワークショップデザイン・創造的なファシリテーション術を皆さんにも体験していただけるプログラムです。学校教育でも「総合」や「探求」など、学生がチームで課題に取り組む場を設計・運営することが増えて来ています。楽しく体験しながら、一緒にワークショップを作れるようになっていきましょう！

<講師>



伊勢 壮太 (いせ そうた)

ビジネスデザインディレクター
博報堂 ミライの事業室

2009年に博報堂入社
プロデュース職・プランニング職・自動車会社への出向など幅広い領域を経験し、現在は新規事業開発に従事
法政大学「コミュニケーションデザイン論」
京都大学博報堂共同講座ファシリテーター
博報堂マーケティングスクール講師



松下 裕美子 (まつした ゆみこ)

マーケティングプランナー
博報堂 関西支社第二ビジネスデザイン局

2018年に博報堂入社
ビジネスプロデュース職にて広告コミュニケーションの企画制作に携わった後、現在はマーケティングプランナーとして、戦略立案、統合コミュニケーション・プランニングに従事

博報堂生活総合研究所 客員研究員

3月4日（土）10時～14時30分頃

記号

「未来の社会を創る子どもを育てる「マーケティング発想WS」を体験しよう！」

D

<プログラム概要>

世の中は大きく変化しています。これからの時代を生きる子ども達は、答えのある問題に正しい解を導き出せるだけでなく、答えのない問題に向き合える力を養うことがとても重要。これからの先生は、先生自身が答えのない問題に向き合い、柔らかない頭で子ども達を指導する力が求められるようになっていきます。

このワークショップでは、身近なテーマを題材に、マーケティングにおける基本的な発想法を体験してもらいます。マーケティング発想というと、ビジネスの世界の特殊なことと思われがちですが、身近な課題にも応用できる基本的な発想法です。生徒との関係づくりやクラス運営などにも役立つ発想法なので、ぜひ体験してみてください。

<講師>

田縁 美幸 (たえん みゆき)

イノベーションプランニングディレクター
株博報堂 第二BXマーケティング局



慶應大学卒業後、2000年に博報堂入社。ストラテジックプランナーとして、飲料、食品、トイレットリー、化粧品、製薬、街区設計など、多種多様な企業のマーケティング戦略に携わる。また、自治体や教育機関と連携したプロジェクトを複数推進。発想法やSDGsをテーマにした中高生向けワークショップも行っている。博報堂こそで家族研究所上席研究員兼務。

京都大学大学院卒業後、2022年に博報堂に入社。大学で教員免許（一種・理科）を取得後、大学院で研究を続ける傍ら、化学の教員（非常勤）として2つの高校の教壇に立つ。現在は博報堂のストラテジックプランナーとして、自動車・日用品・物流事業などのマーケティング戦略や、高校生向けのキャリア教育・ワークショップに携わる。



中村 拳 (なかむら けん)

マーケティングプランナー
株博報堂 第二BXマーケティング局

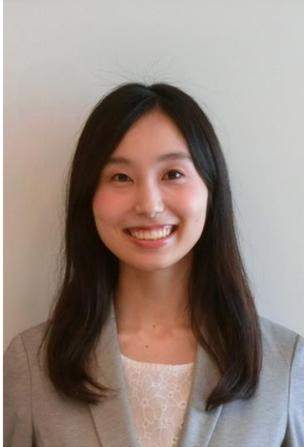
3月4日（土）15時30分頃～17時30分頃
「粒ちがい実感ワークショップ」

全体

<プログラム概要>

皆さん1人1人にとって「大事にしていること・したいこと」は何でしょうか？
きっと様々あるかと思いますが、今回はカードを使ったワーク（個人ワーク・グループワーク）を通じて、「価値観」という観点から、自己理解を深めてください。
博報堂の新入社員やキャリア入社者向けの研修で実施したプログラムを一部アレンジした形で、実際に皆さんにも体験していただきます。奨学生メンバーの皆さん同士で語り合いながら、お互いの価値観について考える時間をすごしましょう。

<講師>



久保田 三絵

（くぼた みえ）

博報堂DYホールディングス
グループ人材開発戦略局
マネジメントプランニング
ディレクター

津田塾大学卒業後、2011年4月、株式会社博報堂入社。
約7年間、営業職として官公庁・化粧品メーカー・大学広報等の業務に従事。
大学時代に教員免許状を取得していたこともあり、
教育や育成の仕事に携わりたいという思いから、2017年に人材開発戦略局に異動し、
新入社員研修や、新入社員のOJTトレーナー向けの研修を実施。
2022年10月より、キャリア入社者（中途入社者）研修担当も兼務となり、
博報堂に新たに入社して下さった方を対象とした研修全般を担当している。

3月5日（日）9時30分頃～14時30分頃
全体講座「自分が目指す教師像を考える」

全体

<プログラム概要>

あなたは、どんな教師になりたいですか？「子どもに寄り添う教師」「授業が面白い教師」などが漠然と思いつくかと思いますが、それでは「子どもに寄り添う」とは一体、どういうことでしょうか？あるいは、受験や学習指導要領の制約のなかで、児童・生徒にとって「面白い」授業をするために何が必要でしょうか？

全体研修では、先輩教師たちが各時代の制約のなかで、どのような教師像を目指してきたのかを学びながら、自分はどうな教師になりたいのかをもう一歩踏み込んで明確にすることを目指します。さあ、一緒に迷い、悩み、考えましょう！

<講師>



佐久間 亜紀

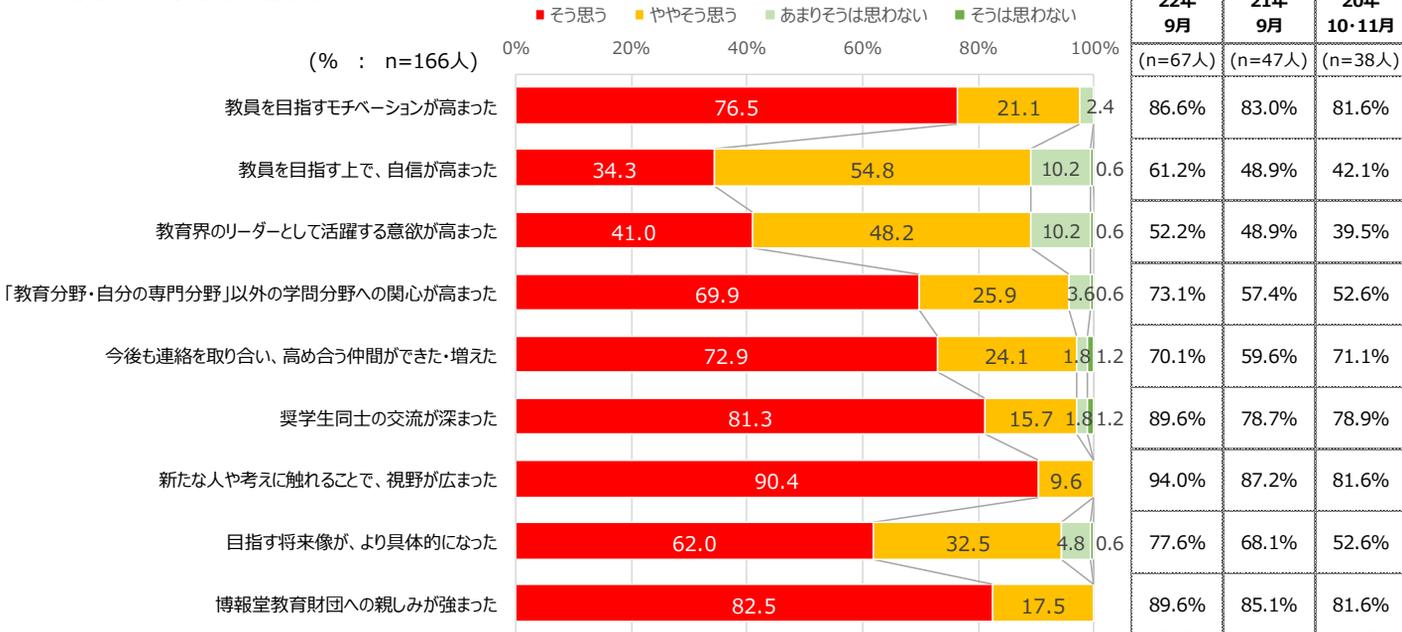
（さくま あき）

慶応義塾大学
教職課程センター教授

1968年東京生まれ。早稲田大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了博士（教育学）。東京学芸大学准教授、スタンフォード大学客員研究員などを経て現職。日本教育学会・日本教育方法学会・日本教師教育学会理事。専門は、教育学（教育方法学、教師教育、専門職論）。教師の力量形成を研究・実践し、各地の学校現場で授業づくりに取り組んでいる。授業研究会「第三土曜の会」主宰。主著に『アメリカ教師教育史』（東京大学出版会、2017年、第13回平塚らいてう賞受賞）、共編著『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2019年）など。

【研修後のアンケート結果】

研修参加による意識変化



【研修で得た成果】

●理想の教師像・自身を見つめなおすきっかけ

- 今回の研修では教師になりたいと本気で考えている人たちが集まっていたので真剣に議論することができた。一人一人の教育に対する熱い思いを知ることができてとても刺激的だった【小学/大1・2女】
- ワークショップや研修、交流を通して、自分が大切にしていることは何か・どんな教員になりたいかなど、自分をより理解することができました。グループに自分の考えを話したりそれに対する考えを聞いたりすることで自信に繋がりました。【小学/大1・2女】
- 自分の得意なこと不得意なことが理解できた。様々な地域から多くの人が集まって同じ目標に向かって考えを共有しあうことで自身の教師になりたいという思いを改めて確認できた。【小学/大3・4女】
- 今回の研修では主に「自分について」考えるような機会が多かったように感じました。【小学/大3・4女】
- 迷うことで、自己嫌悪に陥るのではなく、それを当然だと肯定的に受け止められるようになったこと。【特支/大3・4女】
- 自分の価値観のあり方を分析できたこと。今年は自分と向き合い、自分のことについて深く考えていかなければならないので、良いきっかけづくりができてよかった。【特支/大3・4女】
- 理想の教員像に自分の大切にしている価値観を当てはめていくと、自分にとってとても良い先生になれそうなことに気づいた。【中高国語/大3・4女】

●同志に直接出会えた・モチベーションアップ

- 対面での研修は今回が初めてだったので、直接顔を見合わせて交流することの重要性を実感することができた。【小学/大1・2女】
- 今後も「学び続けていきたい」と思ったのが最大の成果です。奨学生や財団みなさんとなりがり続けていきたいですし、研修やウェビナーコンテンツを通じて学び続けたいと思うことができました。【小学/大3・4男】
- 2泊3日という長い期間を連続して共にし、たくさんの研修に取り組んだり、交流会を楽しんだりしたことで、全国に同じ夢や目標をもつ友達、同志ができたことです。【小学/大3・4女】
- 対面の方が、仲間のやるきをひしひしと感じることができ、研修に対するモチベーションが上がったと感じた。【小学/大3・4女】
- 教員採用試験の意欲が高まったことです。今後も目指す教員像を持ち続けながら、教員になるために学び続けていきたいと思いました。【特支/大3・4女】
- 「仲間」です。今まで一番、仲間との繋がりを強く意識した研修だったのではないのでしょうか【特支/大院男】

●それぞれの価値観を尊重することの重要性

- 他者の価値観を知り尊重し合うことの大切さと自分の目指す教師像と時代が求める教師像の関係性を知ることの2つのことを学べた点が最も大きな成果であると考えます。【小学/大1・2女】
- 自分の価値観も人の価値観も大切にしながら、自分が考えたことは小さなことでも積極的に発言、発信してみるということ、他の人の考えをまずは否定せずに聞き、自分の中で考えた後、自分の考えを相手に伝えるということ。【小学/大1・2女】
- 自分を持ちつつも、他の人の考えを受け入れ、仲間を大切にしていけることでよりよい教師を目指したいと思えたこと。【小学/大3・4女】
- 今回の研修では、一緒に学ぶ時間と、一人で自分に向き合う時間の両方の時間があつた。一緒に学ぶ時には、講師の先生方は、まずは相手の意見を受け入れよう、肯定しよう、と話されていた。それをうけたグループ活動は、本当に楽しく、自分の考えを否定されないことが保証された環境は、本音を引き出す力があると感じた。【小学/大3・4女】
- 「自分の軸はしっかりと持っておいて良い」ことや、「みんな違うからこそ、楽しい」ということがよくわかった。多様な意見があること、多様な人がいること、そして、それらから学べるものがたくさんあると再認識できた。【小学/大3・4女】
- 今回の研修で得たことは、他者を否定せず尊重することの大切さについてです。生徒の意見をしっかりと受け止めることのできる教員になりたいとおもいます【特支/大1・2女】
- 粒ちがいない仲間が揃ってチーム学校ができることに気付かされた。粒ちがいないからこそお互いが補い合い子どものために頑張っていく必要があると感じた。【小学/大院男】
- 価値観の違いということが、どの講座においても重要視されているというふう考えた。いろいろな考えを持っているあなたも、違う考えを持っている私も大切であるということ再認識させてもらったこと。【特支/大3・4女】
- 相手の主張や話は否定しないことが、全体の研修で前提として設けられていたため、参加している方もそれぞれの思いを安心して環境でお話しすることができたのではないかと感じました。【特支/大3・4女】

【研修中の奨学生の様子】



<交流プログラム／ブロック別近況報告会>

近況報告会は、教員になっても気軽に集まりやすく、また、地域での情報共有や助け合いが出来るように、今後は地域ブロック別に行っていきます。

将来的には10のブロックに分かれることを見据えて、今年度は、東京2会場、名古屋会場、大阪会場、福岡会場の5つの会場に分かれて近況報告会を行いました。

【大阪会場】

- ・対象ブロック：大阪・兵庫ブロック、京都・奈良・和歌山ブロック
- ・実施日：2022年11月27日
- ・参加者：現役奨学生_31名 OBOG_10名
- ・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特支）、大学院生の登壇、留学報告
奨学生幹事による交流企画



【東京会場①】

- ・対象ブロック：北海道・東北ブロック、新宿ブロック
- ・実施日：2022年12月4日
- ・参加者：現役奨学生_38名 OBOG_3名
- ・内容：現職教員の登壇（小学校・特支）、大学院生の登壇
奨学生幹事による交流企画



【東京会場②】

- ・対象ブロック：品川ブロック、渋谷ブロック
- ・実施日：2022年12月4日
- ・参加者：現役奨学生 37名 OBOG 7名
- ・内容：現職教員の登壇（小学校・中高国語・特支）、大学院生の登壇
奨学生幹事による交流企画



【名古屋会場】

- ・対象ブロック：中部ブロック、甲信越ブロック
- ・実施日：2022年12月11日
- ・参加者：現役奨学生 33名 OBOG 4名
- ・内容：現職教員の登壇（小学校2名・中高国語・特支）、大学院生の登壇
奨学生幹事による交流企画



【福岡会場】

- ・対象ブロック：中国・四国ブロック、九州ブロック
- ・実施日：2022年12月18日
- ・参加者：現役奨学生_41名 OBOG_5名
- ・内容：現職教員の登壇（小学校・特支）、大学院生の登壇
奨学生幹事による交流企画



【目的】

将来優れた教員になるために役立つと思われる海外短期留学や、海外研修の参加等により、奨学生自身が目指す教員像や実現したい学びにつながる経験を得られるよう支援します。

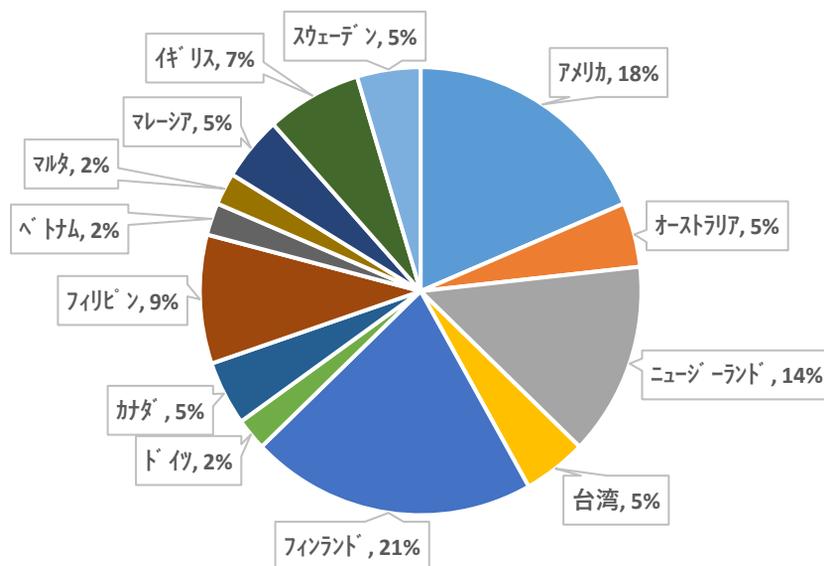
【当支援制度を活用した留学実績】 43件（2023年7月時点）

（利用率：10%、平均期間：60日、平均支給額：約223,256円）

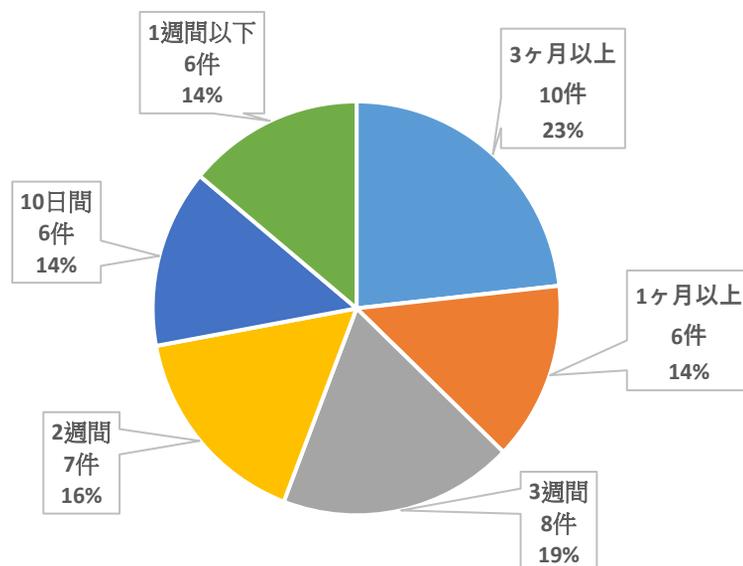
※コロナ禍の渡航制限により、2020年～2021年の利用者はほぼ無い状況でした。

【これまでの留学先・期間】

■ 留学先



■ 留学期間



【目的】

奨学生及び卒業生の交流促進の一環として、奨学生及び卒業生の活動や近況を紹介するWEBマガジンを、奨学生、卒業生、大学担当者様へ配信します。



【2021年度に配信したWEBマガジンの内容】

- ・卒業生のことば
- ・OBOG会が本格始動！
- ・オンライン留学体験記
- ・教授2次試験への道！
- ・新入奨学生紹介
- ・近況報告会・東日本ブロック報告
- ・近況報告会・西日本ブロック報告
- ・卒業生のことば

【2022年度に配信したWEBマガジンの内容】

- ・「近況報告会」登壇者への質問
- ・教育実習体験レポート
- ・新入奨学生紹介
- ・「ありのままの子ども」裏側紹介
- ・「対話型授業のつくり方」講座実施レポート
- ・近況報告会「大阪会場」レポート
- ・近況報告会「東京会場」レポート
- ・近況報告会「名古屋会場」レポート
- ・近況報告会「福岡会場」レポート
- ・近況報告会 幹事アンケート
- ・卒業生のことば

【2023年度に配信したWEBマガジンの内容】

- ・OBOG INTERVIEW BOOK 2023
- ・「OBOG春の集い」レポート
- ・日本語交流プログラム
- ・浅草文化体験フィールドワークレポート
- ・安蒜ひなたさんのマレーシア留学体験記

【目的】

「博報賞」「児童教育実践についての研究助成」等、当財団の他事業への参加し、優れた教育実践者や研究者の知見に触れ、交流を図る機会を提供します。

【奨学生の参加例】

- ・「教育フォーラム」への参加
- ・「日本語交流プログラム」のコミュニケーションサポーター参加
- ・「児童教育実践についての研究助成」成果発表会・交流会への参加
- ・博報賞を受賞した先進的な取組を行う小学校への奨学生による取材（横浜市立白幡小学校）

【他事業プログラム参加時の奨学生の様子／参考】

- 「日本語交流プログラム」のコミュニケーションサポーター参加

実施日：2023年5月15日(月) 浅草

海外校の生徒が参加する浅草フィールドワークに、奨学生13名が、日本文化体験のコミュニケーションサポーターとして参加しました。

